

第三段階 初期ユダヤ宣教

の宣教活動の最初の過越祭

1. イエスの最初の神殿の清め

デイリージーザスニュース #036

ヨハネ2.12-22

12 この後（カナでの最初の奇跡）、イエスは母親、兄弟たち、弟子たちとともにカペナウムに下り、そこで数日間滞在しました。

13 のユダヤ人の過越祭の時期が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。14 神殿の境内では、牛や羊や鳩を売っている人々や、テーブルに座ってお金を交換している人々がいました。

15 彼は縄で鞭を作り、羊も牛もみな神殿の庭から追い出し、両替人の金をまき散らし、彼らの台をひっくり返した。16 鳩を売っていた人たちにイエスはこう言いました。*「これらをここから出してください！私の父の家を市場にするのはやめてください！」*

17 弟子たちは、*「あなたの家に対する熱意が私を食い尽くすでしょう」*と書いてあることを思い出しました。（詩篇69.9）

18 するとユダヤ人たちはイエスに答えて言った。「あなたは、このようなことをする権威があることを証明するために、どんなしるしを私たちに見せてくれるのですか。」

19 イエスは彼らに答えた。*「この神殿を破壊すれば、三日で再建する。」*

20 彼らは答えた。「この神殿を建てるのに46年もかかったのに、あなたはそれを3日で建てるのですか。」21 しかし、彼が語った神殿とは、彼の体のことだった。

22 イエスが死からよみがえられた後、弟子たちはイエスが言われたことを思い起こし、聖書の言葉を信じた。そしてイエスが語った言葉。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、*イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。* 旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

コンテキストダイジェスト	
位置	カペナウムとエルサレムの神殿
タイムライン	西暦30年4月初旬（第3月）
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ教宣教
	の宣教活動の最初の過越祭
タイトル	1. イエスの最初の神殿の清め

コメント：

「弟子作りの最初の輝かしい週」が最高潮に達した後、イエスは弟子たちとカペナウムで数日を過ごしました。この町は、将来約2年間にわたるガリラヤでの偉大な宣教活動の拠点となりました。また、湖で大規模な商業漁業を共同で営んでいたペテロ、アンデレ、ヨハネの故郷でもありました。数か月後、イエスはこれらの兄弟たちをカペナウムの湖岸でフルタイムの弟子として召されました。イエスはそこで、またカペナウムの会堂でも、最も重要な教えをいくつか教えました。イエスはおそらく、この数日を、そこでの将来の宣教活動のために祈り、準備しながら過ごしたのでしょうか。

の家族がカナからカペナウムまでイエスに同行したことは興味深いことです。彼らはカナでイエスの最初の奇跡の成果を味わいましたが、実際に奇跡が起こったことを知っていたのはマリア、奉仕者、そして弟子たちだけでした。イエスの「兄弟たち」（イエスには4人いました）は、イエスが神の救世主であると主張し、神の力を奇跡的に表したとしても、まだ腹を立てていませんでした。この時点では、彼らは安心してイエスに同行していました。後に彼らはイエスが正気を失ったと考え、イエスに敵対することになります。

3月末、イエスはユダヤに戻り、今度はエルサレムへ向かい、過越祭の週に初めて公に説教しました。ユダヤ教の春の祭りである無酵母パン/過越祭、初穂祭、ペンテコステの3つの祭りの期間中、エルサレムの人口は25万人の巡礼者で急増しました。イエスが神殿で行ったように、公に説教し、癒しを行うことで国民と関わるには絶好の時期でした。

イエスの最初の行動は、神殿の庭を一掃する襲撃を仕掛け、神殿の権威を奪取することでした。イエスは即席の鞭を巧みに使い、羊、山羊、鳩、牛を庭から追い出すと、怒りに燃えた目で見つめました。そして、暴利をむさぼる両替商のテーブルを怒りでひっくり返しました。何がイエスをそのような大胆で激しい行動に駆り立てたのでしょうか。

第三段階 初期ユダヤ宣教

神殿の外庭は「異邦人の庭」と呼ばれていました。割礼を受けたユダヤ人の成人男性だけが、この庭を通して神殿の内庭に入ることができました。異邦人の庭は、真の神を知りたいと切望して神殿に来た異邦人の求道者のために特別に用意されたものでした。イエスは、彼らがこの庭に入って、真の生ける神、つまりイエスの父についての知識を得ることができるかどうかに関心を持っていました。

福音書に記録されている最初の言葉をイエスが語ったのは、まさにこの庭でした。イエスは、この庭に座って、国の指導的な聖書教師たちと教え、交わりをしていたときでした。 **「私は父の利益に心を配らなければなりませんでした。」ルカ 2:49。この庭は「すべての国々の祈りの家」となるはずでした。**イザヤ 56:7; エレミヤ 7:11 父の利益はすべて、御子を通してすべての国々を救うことにかかっていた。

ですから、イエスは、地上で最も壮麗な礼拝の場の一つに引き寄せられた、世界中から来た非ユダヤ人の求道者たちにとって、この法廷が証し、証言、そして祈りの場となることを期待していたのです。イエスはエルサレムにいたとき、この法廷を精力的に伝道に利用しました。初期の教会は、この聖書の命令を、この目的のために（ペンテコステ以降）この法廷を利用することで果たしました。この法廷は、神を知るための地上で最高の場所であるべきでした。

しかし、大祭司の指導者たちは、これらの庭を伝道と祈りの場としてではなく、独占的な商売の場として使うことを承認し、この取り決めによって金銭的に利益を得ていました。献金箱にはユダヤの硬貨しか入れることができなかったため、両替商は世界中の硬貨をユダヤのシェケルに両替するのに法外な料金を請求することができました。同様に、いけにえとして使用できるのは承認された動物だけだったので、いけにえとして使用される動物には高額の手数料が請求されました。そのため、これらの金儲け活動の匂い、音、空間が異邦人の庭を支配し、すべての異邦人が神を知るための場所を提供するという神の目的に大きな障害を作り出しました。この状況は、それを正すためにイエスを熱心に燃え上がらせました。

旧約聖書はマラキの預言で終わることを私たちは見てきました。

「あなたがたが求めている主は、突然、その神殿に来られる。」しかし、主が来られる日を誰が耐えられようか。主が現れたとき、誰が立っていられようか。主は精錬者の火、布さらしの石鹼のようなものである。主は銀を精錬し、清める者のように座し、レビの子らを清めて、金や銀のように精錬し、主に義の供え物をささげさせる。」マラキ書 3:1B-3

イエスは、この衝撃的な聖なる力の示威によって神殿のすべてを支配し、神殿に対する強大な権威を行使しました。大祭司の指導者たちは、自分たちに対するこの非難行為に深く憤慨しました。イエスは、父と同じ家族、つまり三位一体に属していたため、「父の家」に対する権威を主張していました。神殿はイエスのものであり、父の家であるのと同じくらい確かでした。神殿を清めることは、神の権威を持っているという主張でした。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

この真実のさらなる証拠は、イエスが自分自身を「神の神殿」と呼んだときに現れました。これは、ヨハネが「言は肉となり、神の幕屋となって、私たちの間に住まわれた」と書いたときに考えていた真実です。ヨハネ 1:14。イエスは「人の肉に住まわれる神」であり、エルサレムの人間の手で造られた神殿よりもはるかにそうでした。イエスは人々の間に住まわれる神の究極の表現でした。彼はまさに「神の神殿」でした。

イエスは、神の子としての權威の最高の証として、自らの復活を挙げました。イエスが神性を主張する最大の証拠は、自らを死から蘇らせる力でした。イエスの自発的な復活は、神だけが行えることです。なぜなら、神だけが創造物にこう言うことができるからです。

「私を殺そうとしても、絶対に成功しない。なぜなら、私は自分の肉体を含めたすべての生命の創造主だからだ。」

このような復活は、イエスがすべての人に与えた証拠であり、それによって私たちはイエスを心からの満足感をもって神の救世主として信じることができますのです。イエスは宣教活動を通じて、自分の真のアイデンティティを示すこの究極の「しるし」について言及し続けます。神であるという主張は、驚くべきものです。

応用：

「神の神殿」であるように、イエスは彼を信じるすべての人を小さな神殿に変えます。つまり、イエスは、彼の中に住むのと同じ聖霊を私たちに与えてくださるのです。聖霊が私たちの中に住むようになると、私たちは「聖霊の神殿」になります。使徒パウロがコリントの信徒に書いたように、「あなたがたの体は、あなたがたのうちに住んでくださっている、神から受けた聖霊の神殿であることを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分の体をもって神を敬いなさい。」コリント人への手紙一6章19～20節 私たちは信者として個人的な神殿であると同時に、教会として集会的な聖霊の神殿なのです。

神殿が三位一体の神がすべての人々、特に異邦人を御自分に引き寄せるために設計された場所であったように、私たち個々の信者と教会全体は、今日、神が働く神殿なのです。しかし、私たちの罪と利己心は、神殿の庭での物売りのように、私たちの生活の中で伝道の障害となることがよくあります。

イエスが当時の神殿を清めたのと同じように、イエスは今日も私たちを個人的にも集団的にもご自身の住まいとして清め、私たちを通してすべての人をご自身のもとに引き寄せることができますのです。

イエスは今日、どのような態度や行動パターンをあなたから清めようとお望みですか。

イエスはあなたを裁きません。イエスはすでにあなたの代わりに死んで、あなたの裁きと罰を永遠に取り除いてくださいました。しかし、イエスは、私たちがイエスに従うときに、イエスに屈服し、捨て去

第三段階 初期ユダヤ宣教

らなければならない罪と利己心について私たちに自覚させます。そうすれば、イエスは私たちを通して伝道と弟子作りの働きをすることができます。

今日、あなたの中で行われる神の清めの働きに「はい」と言いますか？